

評価者	経営企画部長	比留間 彰
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進
------------	----	----	-------	------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	20.4%	平成27年度	18.9%	平成28年度	18.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	6.4%	1.0%	0.0%
ちょうどよい	8.8%	36.2%	3.5%
効果不十分	14.0%	2.1%	3.5%

平成26年度

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	4.3%	1.4%	0.0%
ちょうどよい	10.3%	39.5%	0.7%
効果不十分	10.9%	4.1%	3.7%

平成27年度

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	3.6%	1.2%	0.2%
ちょうどよい	10.5%	41.4%	0.5%
効果不十分	11.0%	3.4%	5.3%

平成28年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

<妥当性の分析>

お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成29年度は41.4%と選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのはお金を「使いすぎ」・「効果不十分」の11%、3番目に多いのはお金を「使いすぎ」・効果は「ちょうどよい」の10.5%であり、市民意識では半分弱の方がお金の使い方を「ちょうどよい」と考える一方、お金を使いすぎていると考える方も25%程度いることが分かる。

お金の使い方と仕事の効果両面が「ちょうどよい」と答えている人の割合は、平成26年度からの経年で見ると改善している。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	13.5%	51.3%	11.4%	23.8%	100.0%
平成27年度	9.9%	52.5%	12.0%	25.6%	100.0%
平成26年度	11.1%	46.5%	15.4%	27.0%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

指定管理者との連携により各文化施設の適正な管理運営を図るとともに各施設のネットワークを強化し、市民や観光客が鎌倉の様々な文化を体感することができる環境を整え、市民等のニーズを踏まえた事業の充実を図る。

鎌倉芸術館の大規模修繕を進める。

市民文化祭参加者の負担の見直し等、文化事業の手法の検討をするとともに、市民の文化活動の活性化を図るための事業を実施する。

旧和辻邸の活用などにより、若い世代が自ら企画、検討した文化・芸術に親しむことができる事業の発表の場を設ける。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
経企-22	文化行政推進事業	7,790	6,780	22,983	21,914	2.0	2.0	a	A
経企-23	川喜多映画記念館等管理運営事業	36,591	36,231	41,909	41,528	0.7	0.7	b	B
経企-24	鎌倉芸術館管理運営事業	303,976	466,203	324,487	486,634	2.7	2.7	b	A
経企-25	美術館建設準備事業	2,170	2,182	2,930	2,939	0.1	0.1	b	B
経企-26	鎌倉清方記念美術館管理運営事業	46,574	47,937	51,892	53,234	0.7	0.7	b	B
経企-27	文学館管理運営事業	72,158	86,958	77,476	92,255	0.7	0.7	b	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

指定管理者との連携により、各文化施設の適正な管理運営を図るとともに、市民等のニーズを踏まえ、事業の充実を図った。(経企-23・24・26・27)

鎌倉芸術館の大規模修繕を進めた。(経企-24)

市民文化祭参加者の負担の見直し等、文化事業の手法の検討をするともに、若い世代が自ら企画、制作した文化・芸術に親しむことができる事業を旧和辻邸で開催するなど、市民の文化活動の活性化を図るための事業を実施した。(経企-22)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	□ 適切	■ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	□ 適切	■ 要改善

＜上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等＞

- ・各文化施設の事業の縮小による事業費の削減余地の可能性はあるものの、現事業の費用としては適正であると判断しているため、「効率性」は「適切」とした。
- ・各文化施設で実施される各事業の充実、適正な管理運営を図るため、指定管理者と定期的に協議を行った。
- ・文化行政推進事業、川喜多映画記念館、鎌倉芸術館、鎌倉文学館の観覧者・来館者等数はそれぞれ目標値を上回っている。
- ・市民文化祭の見直しを進める一方、若い世代の文化活動の顕彰、芸術文化活動支援を実施した。
- ・鎌倉芸術館の大規模修繕を進めた。
- ・各文化施設の運営費に対する受益者負担の割合は低いため、「公平性」に改善の余地があるものと捉え、「要改善」とした。なお、市民の利用度については、展示施設で1～2割程度、貸し館施設で5割程度となっている。
- ・施設運営を通じた文化事業は順調に行うことができたが、鎌倉市の文化行政のあり方など根本的な部分の議論が未だ不十分であり、今後充実が求められると考えている。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

各文化施設の適正な管理運営を図るとともに、指定管理者との連携により各施設の特性に適った事業の充実を図る。

鎌倉芸術館の大規模修繕を進め、効率的な管理運営を図る。

文化事業の効率的且つ効果的な手法を検討するとともに、市民の文化活動の活性化を図っていく。

鎌倉芸術館の大規模修繕が一段落すれば文化活動の支援・推進にかかる費用は縮減するが、今後も費用に対する効果、効率性などを意識しながら文化行政を推進していく。

4 平成29年度の目標

①指定管理者との連携により各文化施設の適正な管理運営を図るとともに各施設のネットワークを強化し、市民や国内外の観光客などが鎌倉の様々な文化を体感することができる環境を整え、市民等のニーズを踏まえた事業の充実を図る。

②平成29年10月の再開館に向け、鎌倉芸術館の大規模修繕を適切に進める。

③市民文化祭参加者の負担の見直しや市民団体との協働など、文化事業の手法の検討をするともに、市民の文化活動の活性化を図るための事業を実施する。本市の文化行政のあり方について、引き続き検討を進める。

④市所蔵美術作品の市民への鑑賞機会として、鎌倉ゆかりの高田博厚の作品展を実施する。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	経企-22	事業名	文化行政推進事業					
指標の項目	観覧者数(年間)	単位	人	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
より多くの市民等に文化芸術に親しんでもらうため。	目標値	29,500.0	29,500.0	29,500.0	29,500.0	29,500.0	31,500.0	
	実績値	42,481.0	43,281.0	35,354.0				
	達成率	144.0%	146.7%	119.8%				
整理番号	経企-23	事業名	川喜多映画記念館等管理運営事業					
指標の項目	来館者数(年度)	単位	人	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
より多くの市民等に施設を利用してもらうため。	目標値	24,050.0	25,000.0	25,000.0	25,000.0	25,000.0	25,000.0	
	実績値	23,675.0	27,125.0	27,382.0				
	達成率	98.4%	108.5%	109.5%				

整理番号	経企-24	事業名	鎌倉芸術館管理運営事業									
指標の内容	施設利用率						単位	%	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平成29年 1～9月 は大規模 修繕のため休館				
鎌倉市の芸術文化の拠点である鎌倉芸術館の機能を十分に発揮できるようにするため。	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0					
	実績値	90.5	88.0	88.6								
	達成率	106.5%	103.5%	104.2%								
整理番号	経企-27	事業名	文学館管理運営事業									
指標の内容	来館者数(年度)						単位	人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
より多くの市民等に施設を利用してもらうため。	目標値	100,000.0	100,000.0	100,000.0	100,000.0	100,000.0	100,000.0					
	実績値	110,046.0	112,066.0	103,631.0								
	達成率	110.0%	112.1%	103.6%								

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・鎌倉にふさわしい文化芸術の創造・発信の支援を改めて考えていくことが求められる。鎌倉らしい「文化」としてバックアップするような施策が見えない。

・PFI事業の不調のような案件について、今後同じような事が起きた際にはどのような動きを取るべきか、あらかじめ最低限のことだけでも検討しておくことが求められる。

・指定管理者との連携により各施設の特性に適った事業となっているかどうかかが問題である。

・文化施設の受益者負担は利用者へしっかりと説明し理解を得ることが求められる。

・目標などに具体性が見られない。

指摘への対応、コメント等

・鎌倉にふさわしい文化芸術の創造、発信については、今後も鎌倉文学館、鎌倉清方記念美術館、川喜多映画記念館、鎌倉芸術館の指定管理者と協議しながら行っていく。関係団体等との協議を進めながら、鎌倉市の文化行政のあり方を検討していく。

・今後、施設の大規模修繕等を行う際には、手法を一つだけに限定せず、代替策も含めた検討を行っていく。今回の経緯・結果を検討し、今後の施設管理等にも活かしていく。

・各指定管理者からは定期的に報告を受けているほか、定期的に指定管理者と話し合う機会を設けている。それらを通して、各施設の特性にあった事業が実施されているかを常に確認をしている。

・関係課や各施設の指定管理者と連携を図りながら、施設を維持するための費用や受益者負担について、理解を求めていく。

・各事業は、本市における文化活動、推進を図るため実施しているが、各事業の目標値などについては、他市の事例などを研究していく。

提言

・若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させてほしい。

・鎌倉芸術館のPFI事業の不調は残念であるが、施設の修繕は待てくれないので、新たな方法を含め、積極的に取り組んでいただきたい。合わせて、不調の理由をきちんと分析し、今後の運営に対して影響がないように努めてほしい。

・文化施設の来場者の中に観光客の割合が示されていないが、来館者数、観覧者数は観光客の増加に伴って増加しているとも考えられるので、観光部門との連携を図りながら活用方向を検討してほしい。

・寄付された旧前田邸について、具体的活用方法が定まっていなとあるが、庁内公募ではどのような案があったのか。効果的な利用策について広く市民に改めて公募する等、検討すべきである。

提言に関するコメント等(総論)

今後も、本市の文化を市内外に発信・推進していくため、あらゆる世代の市民や国内外の観光客に向けた文化事業を実施していくとともに、観光関係機関などと周知方法などについて連携していく。また、既存文化施設にとらわれない場での文化活動に対する支援策や施設の整備、活用についても新たな視点で検討していく。

旧前田邸は、市街化調整区域であり、活用に強い制約を受け、庁内ニーズ(観光客の休憩スペース等)に応えることが必ずしも出来ない状況である。文学館との一体利用も含め、早期に結論を出したいと考えている。

- 美術館構想はどうなったのか？構想だけで止まっている。美術品の管理にはお金がかかりすぎている。その必要性を含めて再検討すべきである。
- 文化施設活用以外の文化活動、とりわけ＜現代ならではの文化活動＞の振興に注力すべきである。
- 人を集める施設なので、観光事業と一体的に進めるべきである。

鎌倉評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・各文化施設の運営費に対する受益負担の不公平さを是正しようと努めている。
- ・鎌倉芸術館の大規模修繕が進められた。どのようにリニューアルするのか期待される。
- ・指定管理者との連携により、適正に管理運営が図られている。
- ・過去と比較して、施策の認知度が少し改善している。
- ・鍋木清方記念美術館管理運営事業で来館者数(年度)が増加している。市民サービスの向上と効率的運営のために、指定管理者制度の積極的な活用が行われている。
- ・若い世代が自ら企画、検討した文化・芸術に親しむことができる事業等の検討している。また、旧和辻邸の活用などにより、若い世代が自ら企画、検討を行う機会などを作っている。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↑	1	↓	0	→		→
効果	○	1	△	1	—		—

《課題》

- ・市民等のニーズという言葉を使っているにも関わらず、その声に公平さがいないこと。
- ・市民文化祭以外にも主催でない形で市が関わっている文化活動支援があるはずである。それを評価シートに記載されたい。
- ・「各文化施設の適正な管理運営」が主要業務であるが、何をもって「適正」と判断するのかを明確にされたい。単に動員者数の増減ではない。新指標の設定が課題である。
- ・鎌倉で文化施設と位置づけられているのはこれだけか。市民感覚では他にもあると感じているのではないか。整理を望む。
- ・受益者負担については、市民に理解が得られるよう、金額を提示されたい。
- ・文化協会に所属しているかないかで使用料に違いが出ている。現在、NPO 等で文化活動を推進している団体も多数出てきている。この辺の不公平を市民は感じているため、時代のニーズの変化を見据え見直す必要がある。
- ・市民文化祭参加者の負担の見直しや各文化施設の運営費に対する受益者負担の「公平性」の改善はもっと具体的に考える必要がある。
- ・指定管理者との連携により各施設の特性に適った事業かどうか問題である。
- ・各文化施設の利用料金が市民とその他で同一であるが、税金により間接的に維持管理費を負担している市民とそれ以外の利用者の利用料金について、今後も同一とするのかについて協議していただきたい。
- ・今後の方向性や目標に具体性や現状を考慮した変化が見られない。次年度においては現状を分析した上で、新たな目標を立てていただきたい。

《提言》

- ・文化施設のみならず、「公共施設受益者負担の考え方」を明確にしてほしい。
- ・「文化」について、色々な意見はあると思うが、文化は都市の品格である。その意味では、たとえ認知度が低くても、成果がなかなかあらわれなくても、都市として実施する必要はあると考える。特に鎌倉市は、鎌倉市の使命として文化を持続的に実施していく必要がある。
- ・鎌倉芸術館の大規模修繕は予算規模も最大であり、大規模修繕の結果による、利用の効率化などPDCAについてチェックすべきである。
- ・鎌倉にふさわしい文化芸術の創造・発信の支援を改めて考えていくべきである。鎌倉らしい「文化」としてバックアップするような施策が見えない。若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。
- ・効果的な利用策について広く市民に改めて公募する等、検討した方がよいのではないかな。
- ・各施設の利用者が増加しているのは、どの様な取組による結果なのか、何も新たな取組を行っていないのであれば、単なる旅行者の増加によるものである事も考えられるため、目標値を達成した要因等も検討すべきである。
- ・観覧者数や来館者数などの指標は、目標値と実績値の乖離が著しく、何を根拠に目標値を定めているのか不明である。また目標値が達成されているのに新たな目標値を設定していない。毎年現状を分析し、新たな明確な理由をもって目標値を設定すべきである。
- ・「古都保存法施行に関する過去50年間の資料を取りまとめ、資料集を作成しました。」とあるがそれらが利用されていない。資料集としてまとめた成果を最大限に活用し、市民に古都の保存に関する理解を深めてもらう取組を行うべきである。
- ・利害関係者の中だけで事業を実施している印象が強い。利害関係者だけではなく、本当の市民ニーズはどこにあるか。施設を利用していない人へのアンケート実施も行うべきである。

《質問》

- ・鎌倉市のホームページに平成27年3月に改訂された「鎌倉市文化推進プラン21」の改訂目的が「平成15(2003)年1月の策定時から10年余りが過ぎるなかで生じたデータの陳腐化を現況に合わせるため、平成27年3月に更新しました」とあるが、内容の見直しは無かったのか。
- ・指標は達成されているが、この指標の設定は、例えば施設管理運営の採算の観点からみると黒字なのか。
- ・鎌倉芸術館の大規模修繕についても、何か具体的な例示を示して効率性や経済性を持って行っているか。
- ・「施設運営を通じた文化事業」とは何か、また「文化行政」とは何か。
- ・若い世代の文化活動の顕彰、芸術文化活動支援」の内容は何か。